

参考1



「道の駅」を取り巻く状況について

国土交通省 関東地方整備局



「道の駅」の目的と機能

「道の駅」の目的

- ・道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供
- ・地域の振興に寄与

「道の駅」の機能

休憩機能

- ・24時間、無料で利用できる駐車場・トイレ

情報発信機能

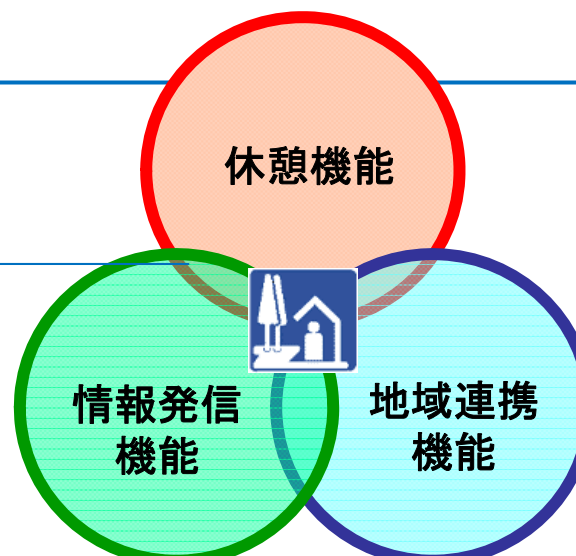
- ・道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報などを提供

地域連携機能

- ・文化共用施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設

「道の駅」の基本コンセプト

地域とともに作る
個性豊かな
にぎわいの場



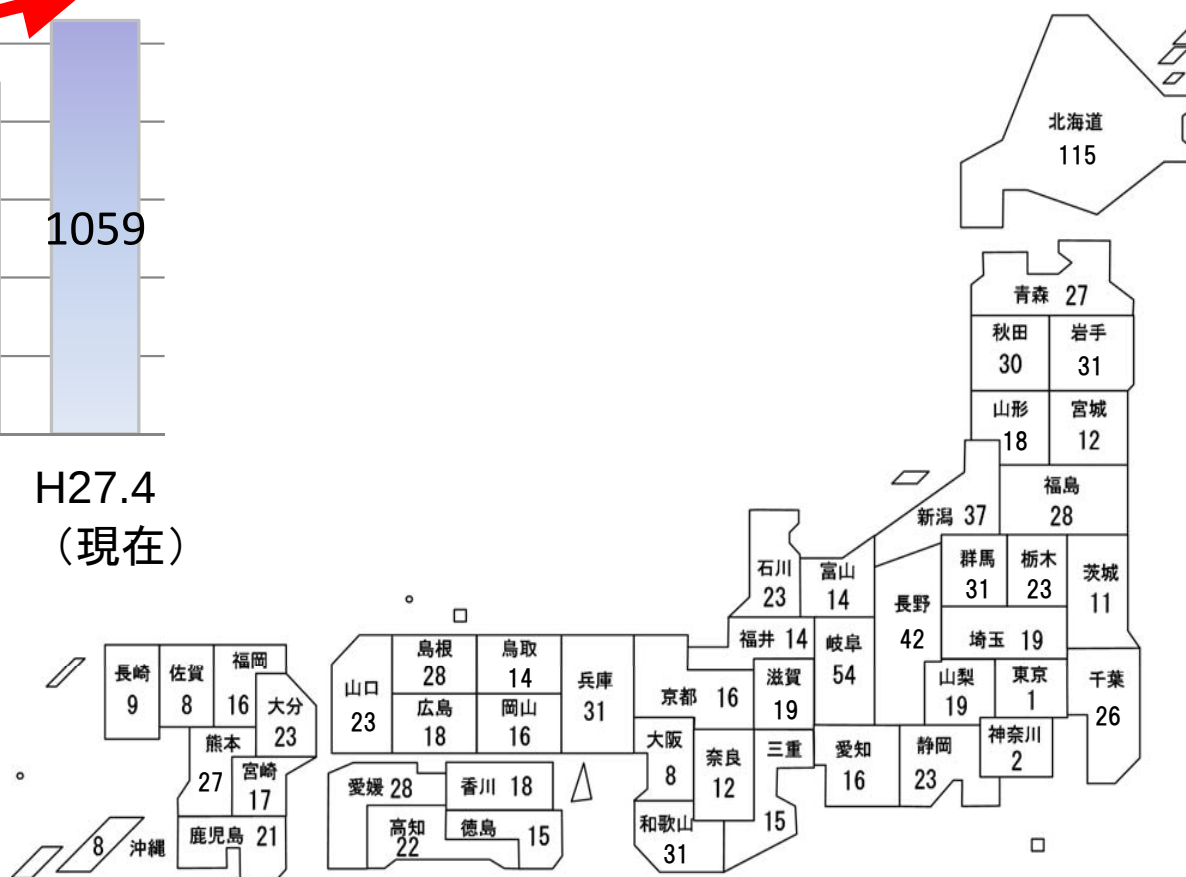
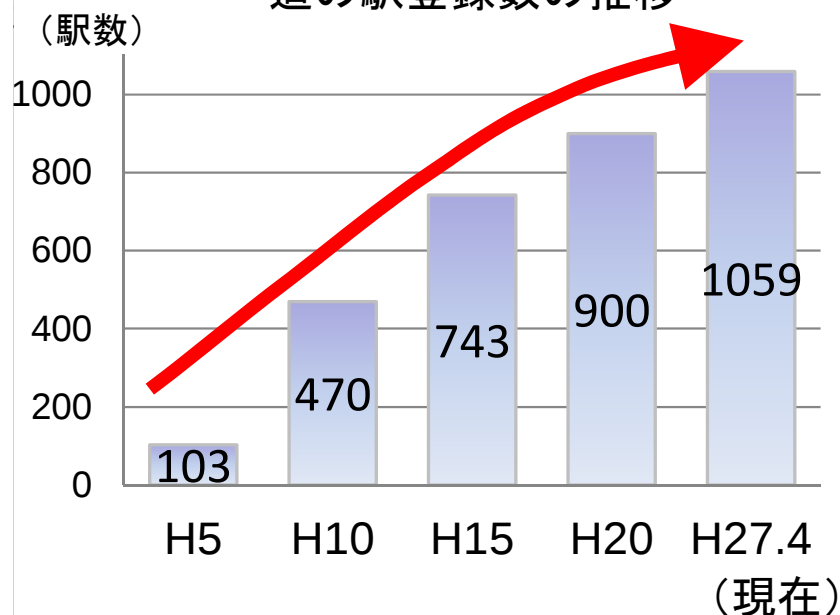
災害時は、防災機能を発現

都道府県別「道の駅」登録数

平成27年4月現在

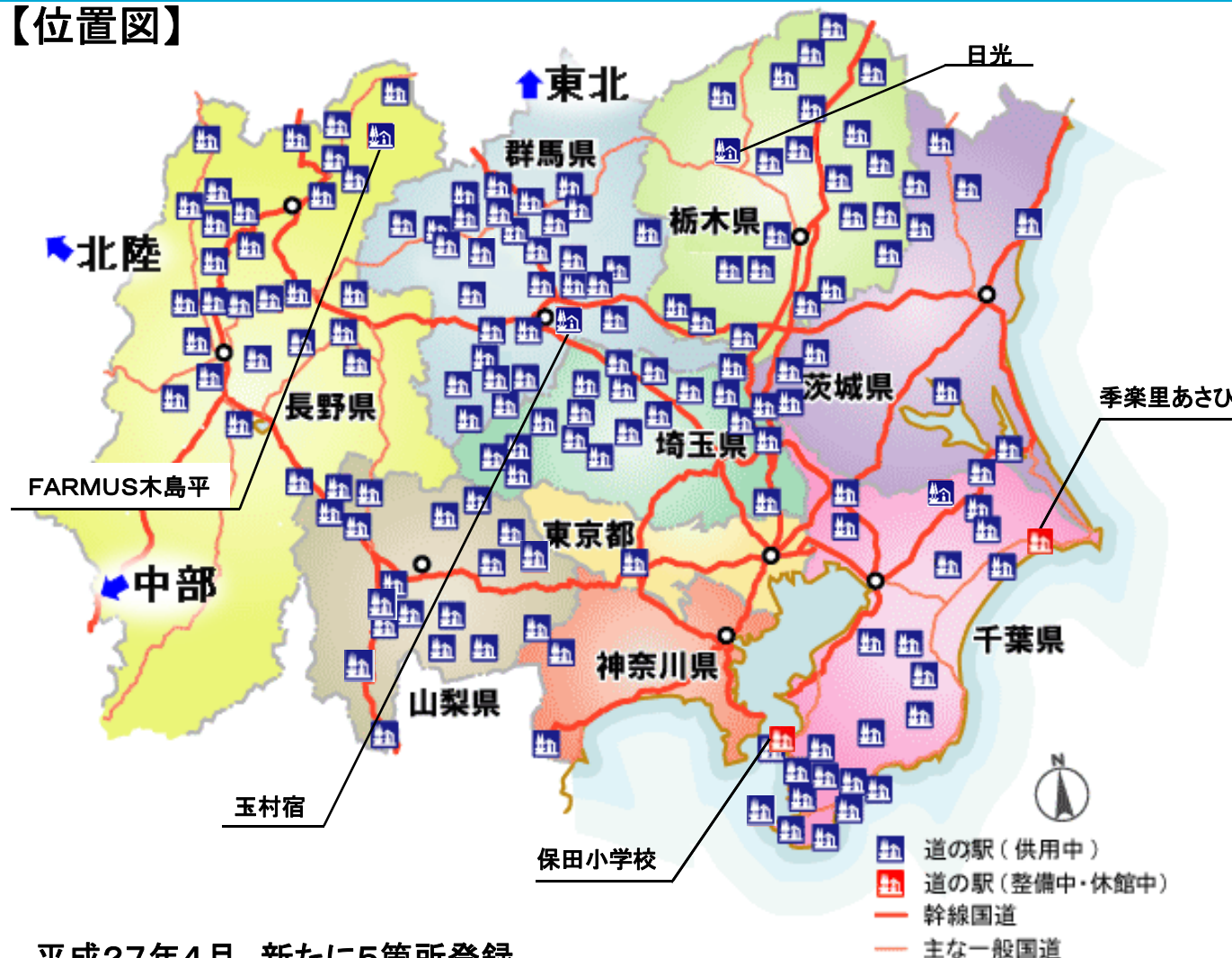
「道の駅」総数1,059駅

道の駅登録数の推移



関東地方整備局管内の『道の駅』

【位置図】



〈登録数〉

全 国:1,059駅

関東地整管内:161駅

茨 城:	11 駅
栃 木:	23 駅
群 馬:	31 駅
埼 玉:	19 駅
千 葉:	26 駅
東 京:	1 駅
神奈川:	2 駅
山 梨:	19 駅
長 野:	29 駅

※平成27年5月末現在
供用中:159駅、整備中:2駅

※長野県については、上記の他に
中部地整内で13駅登録。

平成27年4月 新たに5箇所登録

- 栃木県:「日光」 (国道119号)
- 群馬県:「玉村宿」 (国道354号)
- 千葉県:「季楽里あさひ」 (市道1級59号線)
- 千葉県:「保田小学校」 (鴨川保田線)
- 長野県:「FARMUS木島平」(国道403号)

【平成27年4月27日供用】

【平成27年5月31日供用予定】

【平成27年10月供用予定】

【平成27年12月供用予定】

【平成27年5月1日供用】

○ 「道の駅」は

主に市町村が設置し、国土交通省が登録する道路休憩施設

駐車場やトイレのほか、情報提供・休憩施設や地域振興施設を備え、地域の情報発信や交流の場として活用されている。

(施設イメージ)



制度創設 平成5年

「道の駅」登録数は、全国1,059駅

○ 地域の創意工夫で、「道の駅」を地域活性化の拠点とする取組が進展

● 観光で人を呼ぶ

「農業プラス観光」で人口3700人の村に年間120万人来訪。リピート率は約7割。
(群馬県川場村「川場田園プラザ」)



● 移住で人を呼ぶ

毎年100名以上が「道の駅」へ移住相談。これまで17世帯34名が移住
(熊本県小国町「小国」)



● 特産品で盛り上げる ～6次産業化で雇用と経済効果～

特産品を活かした加工食品の開発販売等、約60名の雇用を創出
(愛媛県内子町「内子フレッシュパーク」)



● 「小さな拠点」をつくる

診療所や役場機能等、生活に必要な機能をワンストップで提供
(京都府南丹市「美山ふれあい広場」)



● 防災力を強化する

広域防災拠点として高度な防災機能を発揮
(岩手県遠野市「遠野風の丘」)



国土のグランドデザイン2050

小さな拠点 ～「未来型小さな拠点」の形成～

「小さな拠点」の形成により日常生活の「守りの砦」だけでなく雇用を生み出す「攻めの砦」としていく。

具体的にはICTを活用した高度なサービスを提供する新たなビジネスモデルの導入、小水力発電、バイオマス発電等の再生可能エネルギーの導入とその電気を活用したゼロ・エミッション・ビークルによる地域内運送の実現など、地域の実情にあった技術革新を取り入れ、新たな価値を創造する「未来型小さな拠点」を形成。



「道の駅」の新たな展開 ～重点「道の駅」の選定～

- 「道の駅」を、好循環の地方拡大の強力なツール、地方創生を進めるための「小さな拠点」と位置づけ、各省庁と連携して、特に優れた取組を選定し、重点支援する取組を実施
- 有識者委員会を経て、重点「道の駅」等として合計90箇所を選定し、公表（1月30日）

「道の駅」の機能別タイプ

地域外から活力を呼ぶ ゲートウェイ型

- ① 地域の観光総合窓口機能
地域全体の観光案内、宿泊予約窓口 等
- ② インバウンド観光の促進
外国人案内所、免税店、無料公衆無線LAN、海外対応ATM 等
- ③ 地方移住等の促進
地方移住のワンストップ窓口
ふるさと納税の情報提供 等

「道の駅」が
活力を呼び、雇用を創出、
地域の好循環へ



地域の元気を創る 地域センター型

- ④ 地域の産業振興
地方特産品のブランド化、6次産業化 等
- ⑤ 地域福祉の向上
診療所、役場機能、高齢者住宅 等
- ⑥ 高度な防災機能
広域支援の後方支援拠点、防災教育 等



全国モデル「道の駅」

国土交通大臣選定

今回選定
6 箇所

地域活性化の拠点として、特に優れた機能を継続的に発揮していると認められるもの

全国的なモデルとして成果を広く周知するとともに、さらなる機能発揮を重点支援

重点「道の駅」

国土交通大臣選定

今回選定
35 箇所

地域活性化の拠点となる優れた企画があり、今後の重点支援で効果的な取組が期待できるもの

取組を広く周知するとともに、取組の実現に向けて、関係機関が連携し、重点支援

重点「道の駅」候補

地方整備局長等選定

今回選定
49 箇所

地域活性化の拠点となる企画の具体化に向け、地域での意欲的な取組が期待できるもの

関係機関が連携し、企画検討等を支援

＜支援にあたっては関係省庁が連携、各種制度が活用可能＞

国土交通省	社会資本整備総合交付金
	集落活性化推進事業
道路、観光、国土計画、公共交通、河川、港湾、都市 等が連携	河川環境整備事業
	地域観光環境改善事業
	地域公共交通確保維持改善事業
	河川環境整備事業
	みなとオアシス制度 等
総務省	地域経済循環創造事業交付金 等
農林水産省	農山漁村活性化プロジェクト支援交付金
	6次産業化ネットワーク活動交付金
	都市農村共生・対流総合対策交付金 等
経済産業省	次世代自動車充電インフラ整備促進事業
	ふるさと名物応援事業
内閣府	地域エネルギー供給拠点整備事業 等
	地域住民生活等緊急支援のための交付金（地方創生先行型）（平成26年度補正のみ）
	地域再生戦略交付金

重点「道の駅」の選定(1月30日公表)



選定された全国モデル「道の駅」等の取組

○ 全国から、地域活性化の拠点として模範となる**全国モデル「道の駅」**として、**6箇所**を選定



主な機能	都道府県	市町村	駅名	主な特長
観光総合	群馬県	川場村	川場田園プラザ	「農業プラス観光」で人口約3,700人の村に年間約120万人が来訪。リピート率は7割。
	栃木県	茂木町	もてぎ	真岡鉄道のSLやサーキットなど地域の魅力へのアクセスポイントとしてのゲートウェイ機能。
	千葉県	南房総市	とみうら	ビワ狩り体験企画など、地域の観光資源をパッケージ化し、都市部の旅行会社へ販売。観光バス3,000台誘致。
産業振興	山口県	萩市	萩しーまーと	隣接する漁港から新鮮な海産物が直接店頭に並び、地産地消にも貢献。地元加工業者と高付加価値商品を開発し、地域に貢献。
	愛媛県	内子町	内子フレッシュパークからり	生産者自らが運営に携わり、特産品を活かした加工食品の開発販売等、約60名の雇用を創出。
防災	岩手県	遠野市	遠野風の丘	東日本大震災時は、後方支援拠点として機能。広域防災拠点として高度な防災機能を分担。

○ 地域活性化の拠点として優れた企画を持つ**重点「道の駅」**として、**35箇所**を選定

＜重点「道の駅」の例＞



高田松原(岩手県陸前高田市)

ゲートウェイ型

- 震災で被災した「道の駅」を遺構として再生。三陸沿岸・復興のゲートウェイとして震災の教訓を国内・海外へ発信。



震災の記憶を留める「道の駅」を遺構とし、地域のゲートウェイに



伊豆道の駅ネットワーク(静岡県伊豆地域)

ゲートウェイ型

- 伊豆半島の8つの駅が連携して外国人観光客に対応。伊豆半島のインバウンド周遊観光を促進。



つどいの郷むつざわ(千葉県睦沢町)

地域センター型

- 一日9千歩 歩くまちづくり、スマートウェルネスタウンの中核として健康支援型「道の駅」を構築。



日本マーケティング協会 「第7回 日本マーケティング大賞」を発表

『「道の駅」による地方創生マーケティング』（全国「道の駅」連絡会）を大賞に選出

2014年度の優れたマーケティング活動を表彰する「日本マーケティング大賞」選考委員会（選考委員長・高橋信義 読売新聞東京本社 常務取締役広告担当）は第7回日本マーケティング大賞に、推薦プロジェクト総数183件の中から『「道の駅」による地方創生マーケティング』（全国「道の駅」連絡会）を選出、奨励賞4件、地域賞3件を選びましたので発表します。5月26日（火）、アルカディア市ヶ谷（東京都千代田区九段北4-2-25）にて表彰式・贈呈式を行います。

1. 日本マーケティング大賞

『「道の駅」による地方創生マーケティング』（全国「道の駅」連絡会）

2. 日本マーケティング大賞 奨励賞

『「LINE Creators Market」によるユーザーとの共創ビジネス』（LINE㈱）

『次世代4WINビジネスモデル、RBCおきなわ健康長寿プロジェクト「歩くーぼん」』（琉球放送㈱）

『人類の抱える課題を解決する新素材ミドリムシの市場創造』（㈱ユウグレナ）

『妖怪ウォッチ〜クロスメディアマーケティングの成功〜』

（妖怪ウォッチ製作委員会代表 ㈱レベルファイブ）

3. 日本マーケティング大賞 地域賞

『宝塚歌劇100周年のマーケティング活動』（阪急電鉄㈱ 創造事業本部歌劇事業部／関西地区）

『集客力強化によるテーマパークの再生』（ハウステンボス㈱／九州地区）

『「山の水族館」を核にした北見市の観光開発』（北見市／北海道地区）

『日本マーケティング大賞』は、厳しい経済環境の中でも、企業組織における新しいマーケティングやコミュニケーションの手法、もしくはビジネスモデルの開発を積極的に促すことで、消費者の生活の向上と経済・社会の活性化に資する活動を奨励し、マーケティングのプレステージを高めることを目的として2007年に発表、第1回は2009年より実施されました。7回目となる本年は、日本の市場が成熟化する中で、成長につながる創意工夫が凝らされたプロジェクトが多くエントリー、厳選な審査の中から上記が選出されました。

企業による「道の駅」企画



個性あふれる道の駅が大集合!

道の駅

みちのえきすぽ

EXPO

2015

2015年
6月2日(火)・3日(水)
10:00-21:00 10:00-19:00

会場 東京国際フォーラム 展示ホール1

ご当地の自慢の品が楽しめる物産展だよ!

入場料

- 前売券 ¥800 (税込)
- 当日券 ¥1,000 (税込)
- イブニング券 ¥800 (税込)

チケット購入方法

ローソンチケットはじめ各プレイガイドで買い求めいただけます。

道の駅も登場するアーティスト・ゴライトも来るよ!

同時開催
道の駅にまつわる講演やパネルディスカッションもあるよ!

楽しいステージイベント盛りだくさん!

<http://www.yomiuri.co.jp/adv/michi/> 読売 みちのえきすぽ 後援

主催：読売新聞社 共催：全国「道の駅」連絡会 後援：国土交通省(※※) 協力：NPO 人と道研究会(ルートプレス21)、文化放送、旅行読売出版社
[お問い合わせ]「道の駅EXPO」事務局 TEL:03-5577-3086(平日10:00~18:00)

■読売新聞社主催で平成27年6月2日(火)、3日(水)に地方創生の拠点である「道の駅」が相互交流と社会との交流を促進することを目的に開催。

道の駅EXPO2015(40箇所の「道の駅」の物産展)

- 日 時：平成27年6月2日(火) 10:00~21:00
6月3日(水) 10:00~19:00
- 場 所：東京国際フォーラム・展示ホール
- 主 催：読売新聞社
- 共 催：全国「道の駅」連絡会
- 後 援：国土交通省
- 協 力：人と道研究会(ルートプレス21)・文化放送
旅行読売出版社
- 入場者数：1日目5,092人、2日目4,058人
(2日間合計：約9,150人・有料5,477人、無料3,673人)
- 参考：6/2に石破大臣、6/3に太田大臣が来場

道の駅フォーラム(基調講演及びパネルディスカッション)

- 日 時：2015年6月3日(水) 10:30~12:30
- 会場、主催、共催、後援、協力は道の駅EXPO2015と同じ
- 定 員：150名(満席、立見多数)
- (登壇者)
- オープニングスピーチ：太田 昭宏国土交通大臣(代読：深澤道路局長)
- 基調講演：大石 久和氏(日本道路協会会長)
- パネルディスカッション：「地方創生における『道の駅』の役割」
- ～パネリスト～
- 大石 久和氏(日本道路協会会長)＜コーディネーター兼＞
- 藤井 聡氏(内閣官房参与)
- 本田 敏秋氏(全国「道の駅」連絡会会長)
- 大橋 菜央氏(リクルートライフスタイル じゃらん編集長)

多様な主体との連携(大学と連携した若者交流の促進)

○「道の駅」と大学の連携を促進し、若者の就労体験や交流の場として活用

○全国「道の駅」連絡会と各地の大学が連携のための協定を既に締結

若者交流の促進



<事例>



女子大生による地域巡りガイド

現在の取り組み

- 全国「道の駅」連絡会と、各大学がインターンシップにかかる基本協定を締結。
全国で42大学と締結、144の道の駅が受け入れを表明。(H27.4.27時点)
- 連携企画型の実習も関東地方整備局管内の18大学で進捗中。



「道の駅」の実習学生による太田大臣への表敬訪問
(平成27年5月7日)

「観光立国実現に向けたアクション・プログラム2015」

○道の駅関連抜粋

(平成27年6月5日観光立国推進閣僚会議により決定)

2. 観光旅行消費の一層の拡大、幅広い産業の観光関連産業としての取り込み、観光産業の強化

(1)「訪日外国人による観光消費拡大・地域活性化」プログラム

＜地方の農林水産物・食品の販売促進＞

・地域の集客機能を強化するため、「道の駅」を核として、周辺の農林漁業者等と連携し、農林水産物や、地域の特色を活かして開発された6次産業化商品の販売を促進する。【新規】

(3)観光産業の活性化・生産性向上に向けた人材育成等

・地域の観光資源が集まる「道の駅」を活用し、観光や地域振興を学ぶ学生の課外活動やインターンシップを実施する。【新規】

3. 地方創生に資する観光地域づくり、国内観光の振興

(1)広域観光周遊ルートの形成・発信

・外国人旅行者の地方への誘客を図るため、複数の広域観光周遊ルートを認定し、関係省庁の施策を集中投入するとともに、地域が推進する以下の取組に対してパッケージで支援し、海外に強力に発信する。【新規】

ー 広域観光拠点地区における、歴史的風致、農林水産資源、文化財、美術館・博物館、「道の駅」等の活用と連携した観光資源の磨き上げ

(2)来訪者が地域の魅力を体感し、再び訪れたい観光地域づくり

＜「道の駅」を核とした地域における観光振興＞

○「道の駅」を地域の観光振興の核として位置づけ、優れた取組を行う「道の駅」を全国モデル「道の駅」、重点「道の駅」として選定し、各省庁の施策を総動員して、観光拠点化の取組を支援する。

・JNTO認定の外国人観光案内所、地域の特産品が購入できる免税店、無料公衆無線LANなど、外国人旅行者のニーズが高いサービスを提供する「道の駅」を拡大し、こうしたインバウンド対応の「道の駅」の認知度向上のため、シンボルマーク『Japan. Michi-no-eki』を創設し、活用・普及を図る。【新規】

・「道の駅」を地域の歴史・文化、地域資源を発信する「ローカルクールジャパン・ショーケース」として活用し、地域の海外発信の拠点とする。【新規】

(6)「LCC等・高速バス支援、国内旅行活性化」プログラム

・国内外の観光客の高速バスによる広域周遊の拠点づくりとして、地域の観光拠点となる「道の駅」との連携を推進する。【新規】

(8)レンタカーによるドライブ観光の活性化

・電気自動車(EV)の充電施設及び無料公衆無線LANを全国の「道の駅」に標準装備する。【新規】

4. 先手を打っての「攻め」の受入環境整備

(12)観光案内拠点の充実、外国人旅行者への接遇の向上等

・全国の「道の駅」について、地域の総合観光窓口としての機能を強化し、着地型旅行商品を販売できる「道の駅」を拡大する。【新規】14